

令和7年度 地域連携推進会議 議事録  
障がい者支援施設 稚内はまなす学園

- 開催日時 令和7年10月23日(木) 15:00~16:30
- 場所 はまなす学園会議室
- 出席者 利用者 2名  
利用者のご家族 1名  
地域の関係者 1名  
福祉に知見がある人 1名  
市町村の障がい福祉担当者 1名  
社会福祉法人緑ヶ丘学園 常務理事 高橋清一  
稚内はまなす学園 施設長 小澤憲明  
副施設長 南 恵一  
施設長 小澤憲明
- 議事録作成者 施設長 小澤憲明

- 1 委嘱状の交付 地域連携推進会議構成員6名
- 2 開会挨拶 社会福祉法人緑ヶ丘学園 常務理事 高橋清一
- 3 出席者の紹介 出席者9名
- 4 障がい者支援施設の歴史的背景と役割
  - (1) 戦後の制度整備と施設の誕生
  - (2) ノーマライゼーションと地域生活支援への転換
  - (3) 現在の施設の位置づけ
- 5 地域連携推進会議の目的
  - (1) 利用者と地域との関係づくり
  - (2) 地域の人へ施設等利用者に関する理解の促進
  - (3) 施設等やサービスの透明性・質の確保
  - (4) 利用者の権利擁護
- 6 法人の概要等について
  - (1) 社会福祉法人緑ヶ丘学園の概要説明
    - 1) 障がい福祉施設および高齢者福祉施設を運営【障がい福祉施設の事業所の紹介】
      - 障がい者支援施設 稚内はまなす学園
      - 生活介護事業所 ゆうらく
      - 生活援助事業所 りぶ・びれー
      - 就労継続支援B型事業所 サポート末広
      - 緑ヶ丘学園生活支援センター みる・み〜る
  - (2) 障がい者支援施設 稚内はまなす学園の概要

- 1) 障がい者支援施設の対象者について
  - 2) ご利用者の性別、年齢構成など
  - 3) ご利用者の日常生活の様子について
    - ・生活介護の様子、旅行、納涼祭、クリスマス会、レクリエーションなど紹介する。
  - 4) 地域との交流
    - ・花火大会、収穫祭、コンサート、施設の窓拭きなど、奉仕活動の受入れを紹介する。
- (3) BCP（業務継続計画）、防犯・防災訓練
- 1) BCP（業務継続計画）とは
  - 2) 防犯・防災計画（年間計画）
  - 3) 自然災害発生時における業務継続計画（BCP）
    - ・地震、津波、大雨、暴風雪、洪水などの災害が発生した際にも重要業務を止めず、早期再開を図る計画であり、利用者の安全確保と支援継続を最優先する。
  - 4) 新型コロナウイルス感染症発生時における業務継続計画（BCP）
    - ・感染拡大を防ぎつつ利用者の命と生活を守り、職員の安全を確保しながら支援を継続するための仕組み。
    - ・感染症対策委員会を中心に、管理職・専門職・現場職員が連携して対応。
  - 5) 災害における心肺蘇生の重要性と対応
    - ・救命入門普及員（職員）の指導で訓練を行い、災害時に迅速な心肺蘇生を実践できる体制を整え、利用者の特性に応じた配慮をもって命を守ることを重視している。
- 7 施設と地域の連携について
- (1) 声問ノーマライゼーション推進委員会実行委員会
  - (2) 声問地区町づくり委員
  - (3) 稚内養護学校運営協議会
  - (4) 職員によるボランティア（地域貢献活動）
- 8 利用者の権利擁護について
- (1) 虐待防止委員会および身体拘束適正化委員会
    - 1) 虐待防止委員会
      - 身体的、心理的、性的、ネグレクト、経済的な虐待の未然防止を目的とし、職員への研修や啓発活動などを通じて、虐待の発生を防ぐ取り組みを行う。
    - 2) 身体拘束適正化委員会
      - 身体拘束適正化委員会は、利用者の自由と尊厳を尊重しつつ安全を確保し、記録確認、代替手段検討を通じて身体拘束の最小限化と依存しない支援の実現を行う。
    - 3) 虐待防止委員会および身体拘束適正化委員会の組織図
    - 4) 虐待防止委員会研修計画の説明（年間計画）
  - (2) 虐待防止チェックリスト
    - 3ヶ月に一度実施し、委員会で集計、分析を行い会議で報告する。

(3) 事故・ヒヤリハット報告

- ご利用者の安全と安心を守るため、責任追及ではなく気づきを活かす報告体制を整え、職員が小さなことも報告しやすい環境をつくることで、安全意識の向上と支援の質、環境改善につなげている。

(4) ご利用者と自治会「うみの会」

- 当施設はご利用者の声を尊重し、自己決定や参加を促すため今年度から自治会を再開。意見交換や行事企画、要望共有を通じて主体的な生活支援を進め、職員はサポート役として安心できる環境づくりに努めている。
- 自治会「うみの会」の名称について紹介  
ご利用者の提案により、「海は広く、どこにでもつながっています。皆さんともつながっていけるように」という思いから、この名称が考えられました。

9 質疑・応答

① Q1 生活介護事業所ゆうらくは、緑寿苑（高齢者 GH）のままの浴室ですか。

A 同じ浴室です。

生活介護を利用されるご利用者のニーズにお応えするために、今後必要に応じて改修工事等、検討を重ねていく必要があると考えます。

② Q2 人間として、何かの役に立っていることが大切なことだと思います。そのことは、生きることにつながるのではと思います。何かの役に立っているかどうかは課題だと思いますし、子どもが何かの役に立っていればいいなと思います。

A 当園では今年度より生活介護の対象を入所施設ご利用者に限定し、通所のご利用者は、新設した「ゆうらく」に移行しました。このことに伴い、生産活動としての椎茸作業は、「ゆうらく」へと移転しました。

現在は、障がいの特性に応じた健康を重視した活動や、個別のニーズに応じた活動に重点を置いています。ご利用者一人ひとりが、得意なことや楽しさを感じられるレクリエーションなどを通じて、互いに認め合えるような活動に努めています。

③ Q3-1 ご家族の面会はありますか。

A 現在、面会は少ない状況です。

年末年始などの一時帰省については、ご家族が高齢となり介護を受ける立場になっている場合や、ご兄弟が身元引受人となっている場合もあります。さらに、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、現在は一時帰省の機会が減少しています。このような状況の中、ご利用者とご家族が交流できる機会として、食事会の開催を企画いたしました。

Q3-2 意思疎通が難しいご利用者の個別支援計画はどうしていますか

A 意思疎通が困難な利用者に対しては、ご本人をよく理解している職員が連携し、情報を収集したうえで根拠を明確にしながら、慎重にアセスメントを実施し個別支援計画を作成しています。

今年度、意思決定支援計画の作成にあたり、生活の場に関する情報提供の一環として、全員のご利用者がグループホームの見学ができるように、企画し実施しました。グループホームについては実際に訪問したことがないご利用者が多かったため、まずは現地を見ていただく機会を設けることにしました。

## 10 稚内はまなす学園の施設見学

### (1) 居住棟など

- 3つのユニット（男性 2、女性 1）  
男性利用者 31 名、女性利用者 12 名
- 全室個室
- 廊下はクッションフロア（転倒によるケガを防止）
- 壁の角には、緩衝材を取り付けている。
- 浴室（機械浴、ストレッチャーが通れるように改修工事）
- 食堂
- 厨房、配膳室  
配膳室より配膳カートで各居住棟に運搬する。

### (2) 体育館

#### 【はまなす体育館】

- 日中活動では、ウォーキング、軽運動、マット運動など
- 行事、研修会など
- カラオケルーム
- 2階がウォーキングコースになっている（1周90M）
- 災害時の避難場所

#### 【みどり体育館】

- 日中活動では、主に強度行動障がいの方々の個別活動（7つのブース）として利用している。ご利用者の障がいの特性に応じた自立課題について紹介
- トランポリン

### (3) 洗濯場、乾燥室

- 起床時に回収した洗濯物は、夕方までにご利用者へお届けすることができる。